

# 第20回木曾音楽祭

〈第15回長野県民芸術祭県民芸術劇場参加〉

小さな町の素敵な音楽祭

1994年8月25日(木)▶8月28日(日)

会場＝木曾文化公園文化ホール

## 8月25日(木)19:00 オープニング・リサイタル

シューベルト 4つの即興曲 op.142 D.935 (寺嶋)  
ムソルグスキー 組曲「展覧会の絵」(藤井)  
ラヴェル 夜のガスパール (野島)

## 8月26日(金)19:00 フェスティバル・コンサートⅠ

フランス 八重奏曲  
(数住 久合田 百武 秋津 星 山本正 吉田 山岸)  
R.シュトラウス テイル＝オイレンシュピーゲルの愉快ないたすら  
(山口 星 磯部 吉田 松崎)  
ドヴォルザーク セレナーデ 二短調op.44  
(北本 新 小畑 古部 山本正 磯部 前田 吉田 松崎  
山岸 山本眞)  
メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲  
(久保 山口 数住 久合田 菅沼 百武 秋津 花崎)

## 8月27日(土)14:00 マラソン・コンサート

モーツァルト 音楽の冗談 K.522 (山口 久合田 山崎 星 松崎 山本眞)  
ショーンソ 詩曲  
ラヴェル ツィガーヌ  
チャイコフスキー 「くるみ割り人形」(藤井 寺嶋)  
(ニコラス・エコノム曲)  
サン＝サーンス 動物の謝肉祭  
(久保 数住 菅沼 北本 新 金 山本正 藤井 寺嶋)

## 8月27日(土)19:00 フェスティバル・コンサートⅡ

ハイドン 弦楽四重奏曲 第67番 二長調「ひばり」op.64-5  
(久合田 小林 百武 花崎)  
フォーレ ピアノ三重奏曲二短調op.120 (数住 秋津 寺嶋)  
オンスロー 九重奏曲  
(山口 百武 北本 新 金 古部 磯部 吉田 山岸)  
シューベルト ピアノ五重奏曲 イ長調「ます」op.114,D.667  
(久保 菅沼 北本 星 藤井)

## 8月28日(日)15:00 フェスティバル・コンサートⅢ

ダンツイ フルートとクラリネットのための協奏曲 (金 磯部)  
モーツァルト ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595 (野島)  
モーツァルト オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルンのための協奏  
交響曲変ホ長調K.297b (小畑 山本正 前田 松崎)

出演者、曲目が変更になる場合がございますがご了承下さい。



### 〈出演予定者〉

ヴァイオリン 久保陽子 数住岸子 山口裕之  
久合田緑 小林幸子 漆原啓子(28日のみ)  
ヴィオラ 菅沼準二 百武由紀 山崎智子  
チェロ 北本秀樹 秋津智承 花崎薫  
コントラバス 星秀樹 新真二  
フルート 金昌国  
オーボエ 小畑善昭 古部賢一  
クラリネット 山本正治 磯部周平  
ファゴット 前田信吉 吉田将  
ホルン 松崎裕 山本眞 山岸博  
ピアノ 野島稔 藤井一興 寺嶋陸也  
指揮 梅田俊明

ディレクター 数住岸子 山本正治

### 〈入場料〉

オープニング・リサイタル 大人 ¥2,500 小中学生 ¥1,000  
フェスティバル・コンサート各1回 大人 ¥3,500 小中学生 ¥2,000  
マラソン・コンサート 大人 ¥2,500 小中学生 無料  
コンサート通し券 大人 ¥10,000 小中学生 ¥5,000

(通し券は木曾福島町教育委員会のみ発売です)

主催＝木曾音楽祭実行委員会・長野県・長野県教育委員会・木曾福島町・木曾文化公園  
後援＝信濃毎日新聞社 協賛＝日本製紙株式会社  
企画制作・マネージメント＝日本アーティストマネージメント

お問合せ・電話予約＝木曾福島町教育委員会0264(22)2251  
日本アーティストマネージメント03(3294)9999 (郵送サービスを致します)  
プレイガイド＝チケットぴあ03(3237)9990 / 名鉄観光サービス各支店  
[名古屋]スタジオ・ホルン052(203)4188 / [大阪]三宅楽器06(312)3740  
宿泊のお申し込み・お問合せ＝おんたけ観光0264(22)2568



# 木曾には心のふるさとがある

深い山と緑の木立

中山道の要衝として栄えた

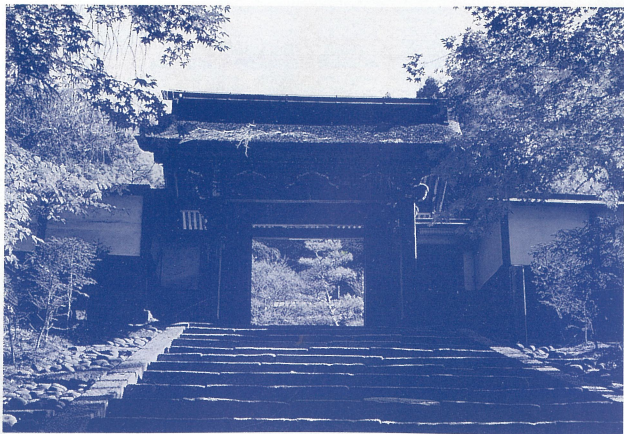
古い格子の家並み、路傍の石仏

木曾川の流れに四季を感じ

文学と歴史と、そして音楽が息づく

そこには、忘れ去ってしまった

ふるさとの姿がある



木曾の自然と深い緑に魅せられた若き楽器製作者が、ここに移り住み音楽祭を始めてから二十年を迎えようとしています。演奏会場に恵まれなかった当時、演奏会は古い木造の小学校の講堂で開かれていました。飾り気の無い素朴な音楽会には、都会の演奏会では味わえない感動を生み、以来十九年、たくさんの演奏家が、夏の終わりに訪れ演奏を繰り広げました。「この小さな山あいの町は、自然と音楽と人間を調和させた崇高な音楽祭を繰り広げる最高の環境を持っている」と、この音楽祭の創始者である、故ウィリアム・プリムローズ卿は語りました。その「自然」と「音楽」そして「人間」は今も変わらずこの地に息づいています。木曾に遅い春が訪れ、新緑が芽生え始め

る頃、遠く中央アルプスの残雪も溶け始め、薄紫色の山肌に美しい模様を描きだします。

夏、真っ青な空の下、高原に涼を求め、人が集まり、ひとときの喧騒。

そして、木曾の短い夏が終わろうとする時、この、中央アルプスの裾野に広がる木曾駒高原に、アルプホルンが音楽祭の始まりを告げます。夕日に映え、赤紫色に輝く幻想的な木曾駒を目にしたながら、会場に入ると、そこには「素敵な音楽」がありました。

足早に季節は秋に、麓の田の刈り入れが終わるころ、山々は色づき始め、長い冬の到来を予感させます。

季節は繰り返し時代が変わろうとも、山の木々は今年も感動的な音楽祭を迎えます。

